

緑化だより

No.182 令和4年5月号



クリンソウ

- 季節の花(あふち(センダン))
- 水生昆虫の話(カワゲラの仲間)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(19)
コツリガネゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 緑学の本

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

あふち(センダン)

「妹が見し 棟(あふち)の花は 散りぬべし

我が泣く涙 いまだ干(ひ)なくにも」

山上憶良(やまのうえおくら) 万葉集 巻5:0798

これを訳しますと

(妻が見た棟(あふち)の花はもう散ってしまうでしょう。

私の涙は、まだかわくことが無いのに。)

神亀5年(728年)、大伴旅人(おおとものたびと)の妻が赴任先の九州大宰府でなくなりました。旅人の親友である山上憶良が、その時の旅人の立場になって詠んだ歌です。

古代には、センダンの花は死者を現世に引き戻す呪力のある植物と信じられていたので大伴旅人に挽歌を送ったのでしょう。

センダンは古名では棟「あふち」と書かれていますが、現在の発音は「おうち」です。この古名は万葉の頃からアハフジ(淡藤)の変化と言われ花色に由来しています。

センダンはセンダン科センダン属の落葉高木で、本州、伊豆諸島、四国、九州、沖縄、中国大陸、朝鮮半島などの温暖な海岸近くの林縁に自生しています。また世界の亜熱帯から熱帯では街路樹や公園樹として植栽されています。

5~6月頃、新緑と同時に5弁の小さい花が房状に咲き、遠くから見ても木全体が薄紫色の花で大変美しいです。9~10月頃 黄色の果実が枝先一面に実り、落葉後も木に残るさまが数珠のようであることから「千珠」(せんたま)と言われ、それが変化してセンダンとなったと言われています。

また古代インドのサンスクリット語でチャンダナという木(白檀)を中国人が発音を漢字で梅檀にしたという説もあります。ここから「梅檀(センダン)は双葉より芳し」ということわざが生まれましたが、このセンダンは熱帯のインド原産の「白檀」のことです。

白檀は香木で強い香りがあります。芽生えたときから香りがあることから、物事に成功する人は、幼い時からひとなみはずれて優れていることのたとえです。

日本のセンダンは、香りのない別の木で、薬用や殺虫剤などに利用されます。果実は核果で数珠ができます。平安時代は魔除けの霊力のある木といわれて獄門に使われた木と言い伝えがあり、嫌う人もありますが、現在では寺院にも植栽され人々から親しまれています。(上村)



センダンの花



センダンの実

水生昆虫の話

カワゲラの仲間

広島県緑化センターの公園入口から、道路に沿って流れる細い川は、木々に囲まれ大きな石がゴロゴロとしている山地溪流と呼ばれる環境で、早瀬や小さな滝、湧が連続していて、一年を通してひんやりとした水温の低い川です。そんな山地溪流を観察すると、まるでジブリ映画「風の谷のナウシカ」の腐海の森のシーンで登場する昆虫を連想させるような水生昆虫を発見することが出来ます。その中でも特に「オオツ！」と目を引く代表格が、このカワゲラ類の幼虫ではないでしょうか。

カワゲラは、襍翅目(せきしゆく:成虫はハネを背面に水平に積み重ねてたためカワゲラ目)の昆虫の総称で、水質階級 I (きれいな水)の指標生物とされており、水温が低く溶存酸素(水の中に溶けている酸素)の量が多い環境に、その大半が生息しています。カワゲラ類は不完全変態(幼虫が脱皮を繰り返してサナギにならず直接成虫になるタイプ)で、成虫になると、その多くの種は口が退化して水は飲めますが、食物の摂取は不可能であると考えられています。

カワゲラ類には多くの種類がありますが、その中でも広島県緑化センターの小川で圧倒的存在感があり、まるでスーパーヒーローのようなレア感を漂わせているのが、こちらの写真「オオヤマカワゲラ属のオオヤマカワゲラ」です。

北海道から九州にかけて広く分布しており、溪流のやや流れが速く、石がゴロゴロしている平瀬の石のすき間などで多く見つかります。終齢幼虫で体長が3センチ前後もある、大型の見ごたえがあるカワゲラで、黄褐色のボディには、黒く美しい模様が頭部から胸部にかけて施されており、その姿はまるで高級な衣装をまとった川の中の王様のよう。

肉食性で、主に他の小型水生昆虫を捕食しながら成長し、約3年程度の幼虫期間を経て春に上陸して成虫となり、陸へと飛び立ちます。

最近では、昆虫が新たな食材として注目されていますが、長野県の伊那谷地方でカワゲラ類も「ざざ虫(食用の水生昆虫)」の一種として、昔から佃煮など伝統的な郷土料理に利用されています。どんなお味なのか気になりますね。(西村)



オオヤマカワゲラ(2024月緑化センターにて)



オオヤマカワゲラの美しい模様

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(19) コツリガネゴケ

今回も湿地植物園で探してみましょ。

園内はショウブの仲間、サワギキョウ、クリソウなどがありますが、そこでは春の草に混ざって、胞子のうをつけた小さなコケが見られます。セン類ヒョウタンゴケ科のツリガネゴケです。

胞子体が出ていないと、見逃してしまいそうな小さなコケですが、胞子体をつけている今の時期は見つけやすいでしょう。

ツリガネゴケはやや湿り気のある畑などで見られます。秋から活動をはじめ、春に胞子体をつけ、胞子を飛ばしたら枯れてしまう1年生です。

葉は長さ3~4mm、幅約1mmの披針形で、鋸歯はありません。中肋は葉先までありますが突出しません。

蒴柄は赤褐色で、約1.5cm前後と長く、胞子のうはカップ型で1mmほどの大きさです。

同じ属のよく似たコケに“ヒロクチゴケ”、“アゼゴケ”がありますが、“ヒロクチゴケは蒴柄が短い”、“アゼゴケは秋に胞子のうをつける”などの違いがあります。(山根)



ツリガネゴケ



ツリガネゴケの胞子のう



ツリガネゴケの葉

研修会のご案内

- | | |
|---|---|
| ○5月7日(土) 『春のバードウォッチング』
散策路を歩きながら野鳥を観察します
※自由参加、無料、双眼鏡持参、雨天中止 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：日本鳥類保護連盟会員
吉見 良一 |
| ○5月11日(水) 『春の写真教室』～春を写そう～
散策路を歩きながら、植物の撮影について学びます
※要予約(先着15名)、無料、カメラ持参、雨天中止 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：二科会会員
宗岡 泰昭 |
| ○5月13日(金) 『5月の自然探勝』
～初夏の溪流路の自然を楽しもう～
※自由参加、無料、荒天中止 | 10:00～12:00 第2駐車場 集合
講師：森林インストラクター
駄賀 恒男 |
| ○5月13日(金) 『ラン学ことはじめ』
～県内の野生ランの特徴と見分け方～
※自由参加、無料、ルーペ持参、荒天中止 | 14:00～15:30 学習室 集合
コーディネーター：駄賀 恒男 |
| ○5月15日(日) 『第11回ひろしま遊学の森こども写生大会』
～春の緑化センターを描こう～
※自由参加、無料、画材(画用紙以外)持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：元中国新聞社図画教室指導審査員
横山 直江 |
| ○5月18日(水) 『コケと草花の観察会』
室内で基本を学び、屋外で観察します
※自由参加、無料、ルーペ持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島大学名誉教授
関 太郎 |
| ○5月28日(土) 『庭木の病虫害教室』
防除と土づくりについて学ぼう
※自由参加、無料 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：樹木医
菅 信貴 |

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、
参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。
また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。
ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内☆♪

第20回ひろしま「山の日」県民の集い (レストハウス前広場)

6月5日(日) 10:00～15:00

森の体験、森のネイチャーゲーム、自由工作塾

◎展示会

場所:レストハウス

(ボード展示)

「野の花水彩画」展 5月10日(火)～5月29日(日)

(ガラスケース展示)

陶友会「陶芸作品」展 ～6月28日(火)

場所:学習展示館(ボード展示)

季節の花 写真展 ～5月29日(日)



「野の花水彩画」展より



陶友会「陶芸作品展」より